



特集●写真的リアリズムをめぐるって

## 竹内公太 制作ノート

二〇二一年秋 アメリカのペンシルバニア州ピッツバーグにある芸術施設「マットレス・ファクトリー」のレジデンス・アパートに滞在していた私はそわそわしていた。わずか五日間の滞在だが、界限の人たちに自分のことを印象付けたい。それで、下手糞な英語でジョークを言おうとしたり、いきなり地元フットボールチームのキャップとTシャツを着て登場したりしてみた。よし、私の気さくで必死な、そう、愛らしいキャラクターは、うん、きっと理解してもらえたと思うが、しかし、私は一体なもの、コロナ禍にもかかわらず海を越えて北米を旅行しているのは何故なのか、肝心のことを伝えていなかった。滞在最終日、私はスーパーに行って、旅の途中で撮影したばかり

の写真をプリントして、アパートの部屋の窓に洗濯ばさみでぶら下げた。また写真の説明と自己紹介を兼ねたウェブページを作って、アドレスのQRコードを窓際に置いた。そうして「僕の即席展覧会をやっているから見て」とうそぶいて回った。ウェブページの内容は次のようなものだった。

第二次世界大戦中に日本が使用した風船爆弾と呼ばれる特殊な兵器がある。これは直径約十メートルの紙製の風船に水素を充填して爆弾をぶら下げた兵器だ。日本はアメリカ本土を攻撃するために約九三〇〇発もの風船爆弾を空に放ち、そのうち数百発が北米大陸に着地した。一九四五年五月五日にオレゴン州ブライの近くの山で六名の民間人がこの爆弾によって殺された。

また一九四五年三月一〇日にはワシントン州ハンフォードにあった核兵器に使用するためのプルトニウムを製造していた工場につながる電線に触れた風船によって反応炉が一瞬停電した。時差があるので同日とは言えないものの、三月一〇日という日は日本では十万をこえる人々が犠牲となった東京大空襲の日として記憶されている。また風船を放った場所から約二〇キロ離れた福島県平市（現いわき市）で東京大空襲帰りのB29から焼夷弾が落とされ、十二名が殺された。

ハンフォードで生成されたプルトニウムは原子爆弾となつて八月九日に長崎に落ちた。この原子爆弾・ファットマンと同型の模擬原子爆弾・パンプキンという爆弾があり、これは日本全国各地に落とされているが、七月二六日に平にも落とされた。

二〇一一年の東日本大震災に伴う原子力発電所事故がきっかけで私は平にほど近い湯本という町に移住した。かつて石炭産業で栄えたこの地域の歴史を辿るうち、実は自分の祖父母も戦前炭鉱で働いていたと偶然に知った。場所は長崎、端島（軍艦島）と高島だ。日本は戦後まもなく風船爆弾に関する資料を隠滅した。作りかけの風船は炭鉱の穴に捨てられ、入口は埋められた。

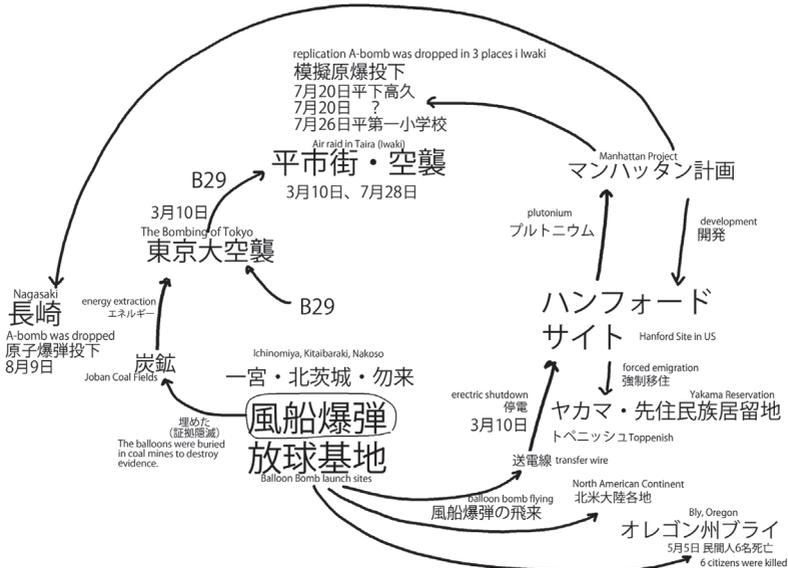
しかし米国にはたくさん記録が残っているらしい。二〇一八年に私は米国国立公文書館へ行つて、米軍情報部が残した風船爆弾についての手紙や報告書を読み漁った。ハンフォードサイト近隣には停電を起こした風船だけでなく、他にも数回風船の飛来を目撃されたり、落下した風船が回収されている。

そのうちの一つはハンフォードサイトの南西のラトルス  
ネイク山（ラリイク山）のふもとで、この場所について  
は着弾地点の航空写真が残されていた。私はゲーグル・  
マップや衛星写真を使ってこの場所を特定し、二〇二一  
年に現地へ赴いた。幸運にも地権者と会うことができ、  
敷地に入って写真撮影した。私はなんとなく足で地面に  
バツ印を描いていた。

もう一つ、ハンフォードサイトのヤキマ・ゲートから西  
に行った先のコールドクリークという場所にも行った。  
この場所では、ハンフォードサイトから風船を追いかけ  
た警備兵が、地面を引きずりながら動く風船を銃で複数  
回撃って止めた。これも同じ三月一〇日のことだったら  
しい。

二〇二一年九月二二日

今にして思えば、ガタガタの英語で書かれたこんな怪文書のよ  
うな自作ページを見ると言い残して立ち去った私は、別の意  
味の印象が残ってしまったかもしれないが……それはまあい  
い。ともすれば日本人にとってさえもなじみのない話かもし  
れないが、内容は史実だ。とにかく私は、自分の住む福島県沿  
岸地域と、アメリカの間の奇妙な縁に導かれ、エネルギーと遠





隔技術、人々との関係に、戦争を介した何らかの必然性を感じていて、かつて日本が使用した「風船爆弾」の落ちた場所を探すということにここ数年ハマっている。継続的活動といえは聞こえも良いが、金が無くなると原発事故による避難区域で警備員をしたり、助成金や支援金を当てにした、散発的な旅だ。次いつ来られるか分からないうという不安定さが、ときに私を過剰なアピールへと駆り立てた。

翌年の秋、風船を放った場所の一つを沿岸部に抱えた福島県いわき市の美術館で、「浜の向こう」と題した展覧会を開催した。